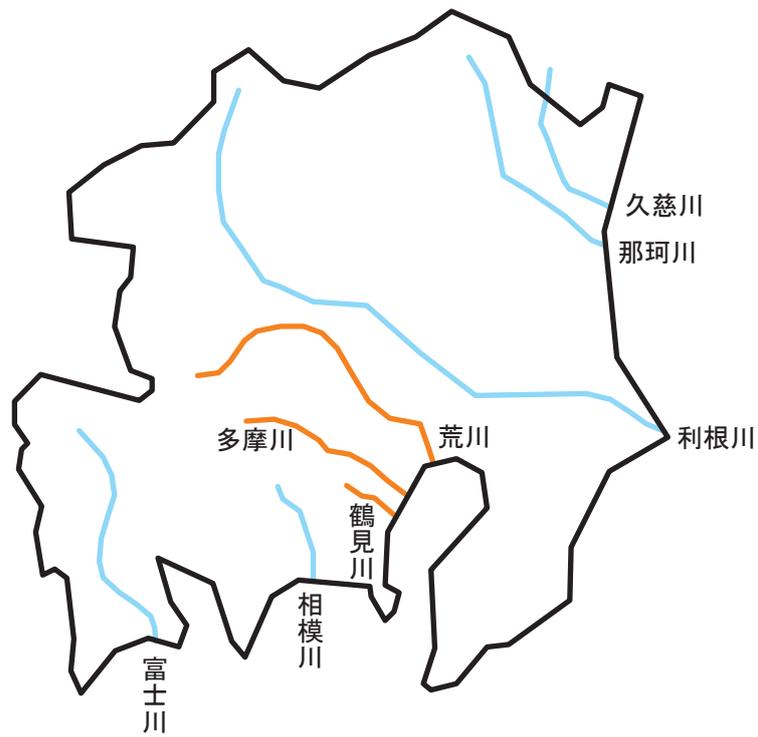


# 関東







常陸河川国道事務所 撮影



1961年7月撮影

久慈川（くじがわ）は、流域面積 1,490km<sup>2</sup>、幹線流路延長 124km を有する。福島県と茨城県の県境にある八溝山に源を発し、八溝山脈と阿武隈山脈の間を南に流れ、茨城県に入って大子町、常陸大宮市などを通り、日立市と東海村の境を通過して太平洋に注いでいる。河口部左岸の旧川は締切られ、日立港の埠頭が建設されている。

# 那珂川 27

関東



常陸河川国道事務所 撮影



1961年6月撮影

那珂川（なかがわ）は、流域面積3,270km<sup>2</sup>、幹線流路延長150kmを有する。栃木県那須町の那須岳に源を発し、南東から南に流れる。茨城県に入って水戸市などを通り、ひたちなか市と東茨城郡大洗町との境で太平洋に注いでいる。河口部は河口港として利用が盛んであったが、漁船の大型化により、左岸側に外港が建設（1971年）され導流堤に分断され現在のような形状となった。



利根川下流河川事務所 撮影

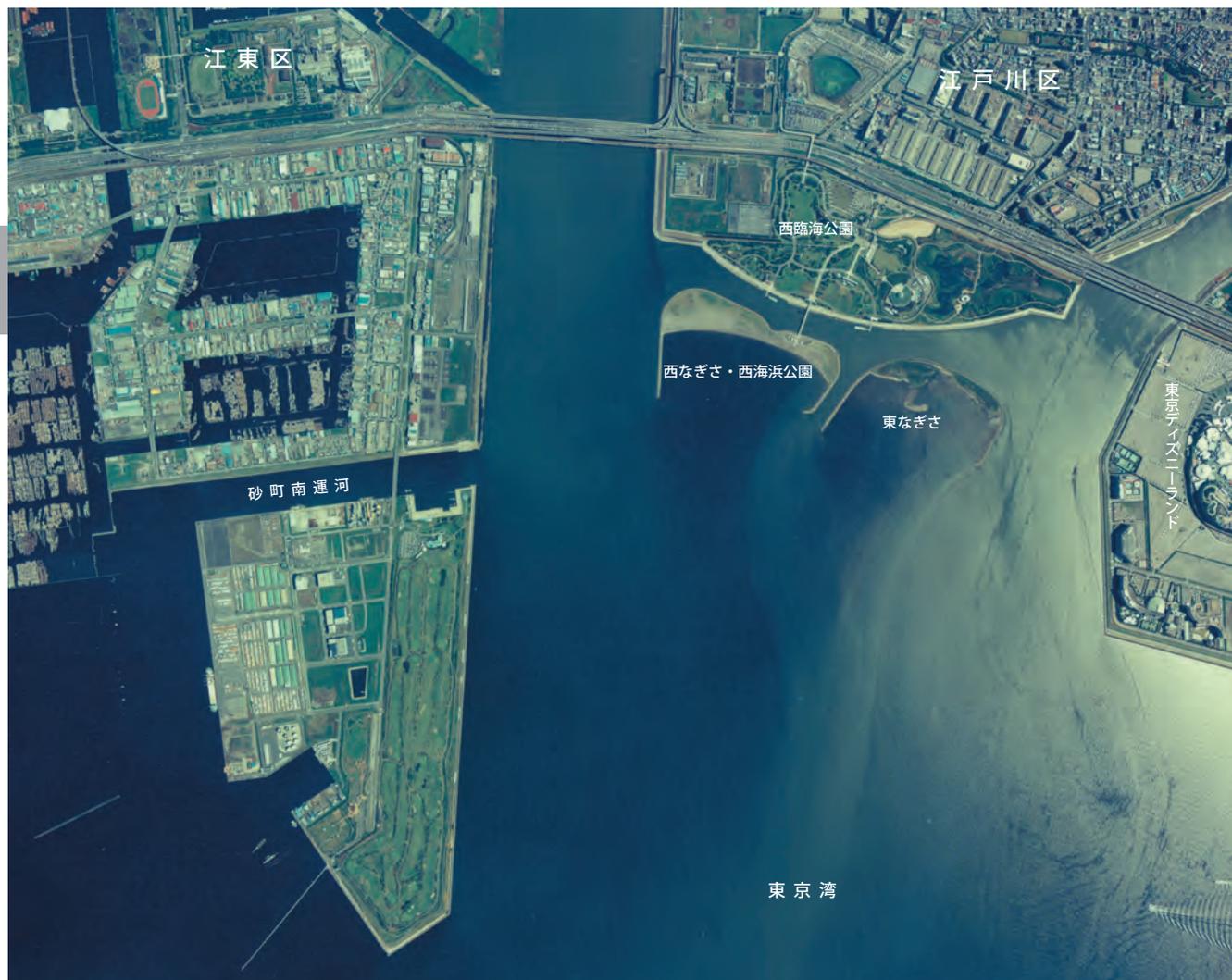


1961年7月撮影

利根川（とねがわ）は、流域面積 16,840km<sup>2</sup>、幹線流路延長 322km を有する。新潟県と群馬県の県境にある越後山脈の大水上山に源を発し、吾妻川（あがつまがわ）、烏川、渡良瀬川、鬼怒川など多数の川を合わせ、千葉県銚子市と茨城県神栖市の境で太平洋へ注いでいる。また、流れの一部は江戸川となり東京湾へと注ぐ。流域は群馬県、長野県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都の1都6県にまたがる。河口部は、左岸側からの砂州の伸長が著しく、右岸が岩礁であることによりみお筋が右岸側に固定されていた。砂州の伸長は、洪水の疎通、航路維持等において障害となることから、左岸に導流堤が施工され、河口幅を絞った現在の形状となった。

# 荒川 29

関東



国土地理院 撮影 (1997年)



1961年3月撮影

荒川（あらかわ）は、流域面積 2,940km<sup>2</sup>、幹線流路延長 173km を有する。埼玉県、山梨県、長野県の三県が境を接する甲武信ヶ岳（こぶしがたけ、奥秩父）に源を発し、秩父山地の水を集めながら秩父盆地まで東に流れる。秩父盆地から長瀬渓谷まで北に、その後東に流れて大里郡寄居町で関東平野に出る。熊谷市で南南東に向きを変え、川越市で入間川を併せる。戸田市近辺で再び東流、埼玉・東京の都県境を流れ、北区の新岩淵水門で新河岸川を併せ、隅田川を分ける。その後再び南流し江戸川区で東京湾に注いでいる。河口部は埋立が進み、左岸には葛西臨海公園の人工なぎさや右岸は若洲海浜公園が位置している。



京浜河川事務所 撮影



1961年3月撮影

多摩川（たまがわ）は、流域面積 1,240km<sup>2</sup>、幹線流路延長 138km を有する。山梨県塩山市の笠取山に源を発し、丹波溪谷周辺の溪流を合わせながら東京都奥多摩湖に入る。途中秋川や浅川などの支川を合流させ東京都の2区24市町村、川崎市を流下し東京湾に注いでいる。河口部左岸には東京国際空港が位置しており、現在はさらに西側に拡大している。

# 鶴見川 31

関  
東



京浜河川事務所 撮影



1961年7月撮影

鶴見川（つるみがわ）は、流域面積 235km<sup>2</sup>、幹線流路延長 43km を有する。東京都町田市上山田町に源を発し、多摩丘陵、川崎市、横浜市と流れ、真光寺川、麻生川、恩田川の支川と合流し、鶴見川多目的遊水地を通り、さらに烏川、早淵川、矢上川の支川と合流し、大きく蛇行しながら川崎市の一部および横浜市北部を貫き京浜工業地帯の鶴見区生麦で東京湾に注いでいる。



京浜河川事務所 撮影



1961年8月撮影

相模川（さがみがわ）は、流域面積 1,680km<sup>2</sup>、幹線流路延長 109km を有する。山梨県南都留郡山中湖村、富士五湖の一つでもある山中湖に源を発し、湖の標高は 981m。富士山北麓の水を集めながらまず北西に流れ、富士吉田市で北東に折れる。都留市を経て大月市で流路を東に変える。相模湖と津久井湖という二つのダム湖を経て、ゆるやかに進路を変え、厚木市からは南にまっすぐ下り、神奈川県中部を貫き平塚市、茅ヶ崎市の境付近で相模湾に注いでいる。河口部左岸に下水処理場、右岸に平塚新港が位置する。

# 富士川 33

関  
東



国土地理院 撮影 (1999年)



1962年9月撮影

富士川（ふじかわ）は、流域面積 3,990km<sup>2</sup>、幹線流路延長 128km を有する。南アルプス北部、山梨県と長野県の県境に位置する鋸岳（のこぎりだけ）に源を発し、途中多くの支流をあわせ山間溪谷を抜け、北杜市から山梨県域に入って甲府盆地を南流する。笛吹川との合流点までは釜無川（かまなしがわ）と称される。市川三郷町と増穂町の町境で笛吹川と合流、ここから富士川の名で呼ばれる。さらにそのまま南流し、途中早川、さらに下って静岡県に入ると芝川などの支流を合わせ、雁堤の南で東海道と交差し、富士市と庵原郡蒲原町との境で駿河湾に注いでいる。

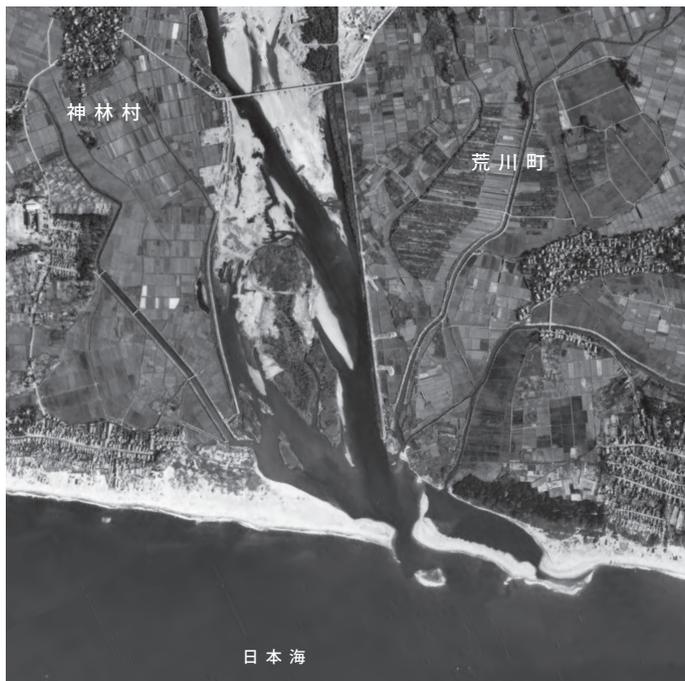
# 北陸







羽越河川国道事務所 撮影



神林村

荒川町

日本海

1965年10月撮影

荒川（あらかわ）は、流域面積1,150km<sup>2</sup>、幹線流路延長73kmを有する。山形県小国町の磐梯朝日国立公園内の大朝日岳（標高1,870m）に源を発し、南西に流れて小国盆地で流れを西に変え、飯豊山地に源を発する横川、玉川などの支流を合わせて新潟県に入り、関川村東部の狭窄部を流下しながら、平坦部に出て大石川、女川、鍬江沢川などの支流を合わせ、越後平野の北側を横断して胎内市桃崎浜で日本海に注いでいる。河口部右岸から堀川、左岸は鳥川、乙大日川が導流堤を隔て日本海に注いでいる。

# 阿賀野川 35

北  
陸



阿賀野川河川事務所 撮影



1962年5月撮影

阿賀野川(あがのがわ)は、流域面積13,761km<sup>2</sup>、幹線流路全長210kmを有する。福島県と栃木県の県境付近、荒海山(1,581m)から流れ出る阿賀川(大川)に源を発し、日光街道に沿って北上し、猪苗代湖を源流とする日橋川と喜多方市塩川町会知地区付近で合流し西へ向きを変える。さらに尾瀬沼を源流とする只見川と喜多方市山都町三津合地区付近で合流する。新潟県に入ると阿賀野川と名を変え、東蒲原郡阿賀町津川で常浪川と、阿賀野市分田付近で早出川と合流、さらに新潟市満願寺付近で小阿賀野川と分流した後、新潟市松浜町付近で日本海に注いでいる。河口部左岸には新潟空港が位置している。



国土地理院 撮影 (1998年)



1962年5月撮影

信濃川（しなのがわ）は、流域面積 12,597km<sup>2</sup>、幹線流路延長 367km を有する。新潟県、群馬県、長野県を流れる。このうち信濃川と呼ばれている川は新潟県を流れる一級河川で、長野県に遡ると千曲川（ちくまがわ）と呼ばれる。千曲川は、埼玉県、山梨県、長野県の県境に位置する甲武信ヶ岳の長野県側斜面（南佐久郡川上村）を源流とし、信濃川は、十日町盆地を通過して越後平野（新潟平野）に出て群馬、新潟県境の谷川岳から流れてきた魚野川に合流、新潟市で日本海に注いでいる。河口部右岸には新潟西港が位置している。

# 関川 37

北  
陸



高田河川国道事務所 撮影



1964年9月撮影

関川（せきかわ）は、流域面積1,149km<sup>2</sup>、幹線流路延長64kmを有する。焼山（標高2,400m）に源流を發し、妙高山南麓を東へ回り込むように流れた後、妙高山麓を東流して、野尻湖から發する池尻川を合わせ流路を北に転じ、山間部を流下した後、高田平野に出て、渋江川、矢代川等を合わせ、さらに河口付近で保倉川を合流して日本海に注いでいる。河口は保倉川と共有している。河口左岸側には導流堤が、右岸側には直江津港の防波堤が建設され現在の形状となっている。



高田河川国道事務所 撮影



1964年10月撮影

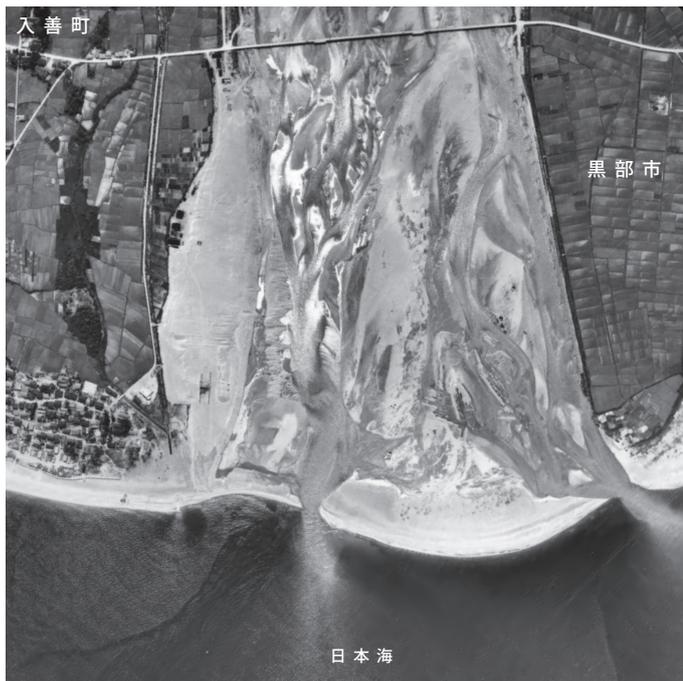
姫川（ひめかわ）は、流域面積 722km<sup>2</sup>、幹線流路延長 60km を有する。長野県大町市青木湖の北に源を発し、山間部を北流しながら、松川、中谷川等支流を合わせて新潟県糸魚川市に入り、大所川、根知川等の支流を合わせ、糸魚川市水崎地先で、日本海に注いでいる。

# 黒部川 39

北  
陸



黒部河川事務所 撮影 (2001年)



1961年5月撮影

黒部川（くろべがわ）は、流域面積は682km<sup>2</sup>、幹線流路延長85kmを有する。富山県と長野県の境、北アルプスの鷲羽岳（わしばだけ）に源を発し、おおむね北へと流れる。川全体の8割は深い山地を縫うように流れ、3,000m級の山々が連なる立山連峰と後立山連峰の間に黒部峡谷を刻みながら流下し、黒部市宇奈月町で山地を抜けると、黒部川扇状地と呼ばれる大きな扇状地を北西に流下する。この扇状地は黒部市、入善町にかけて広がり、そのまま海中にまで広がっている。本流はそのまま途中、左岸の黒部市、右岸の入善町を経て富山湾に注いでいる。



富山河川国道事務所 撮影



1961年5月撮影

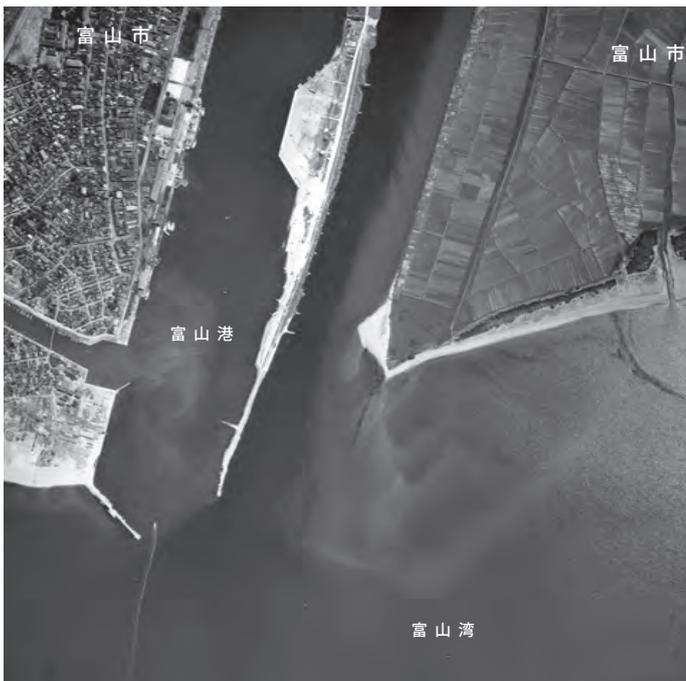
常願寺川（じょうがんじがわ）は、368km<sup>2</sup>、幹線流路延長56kmを有する。富山県と岐阜県、長野県との県境にそびえたつ標高3,000m級の山々の北アルプス立山連峰の北の俣岳（標高2,661m）を源にした真川と、立山三山の一つの浄土山（標高2,831m）に源を発し、土砂崩壊の激しい立山カルデラを流れる湯川とが樺平（かんばだいら）付近で合流し、常願寺川と名を変え、さらに千寿ヶ原で称名川と合流して水量を増し、山峡の地を流れ、立山町岩峯寺付近からは扇状地を形成し、一部天井川となりながら富山平野にある富山市の東側を北流しながら富山湾に注いでいる。

# 神通川 41

北  
陸



富山河川国道事務所 撮影

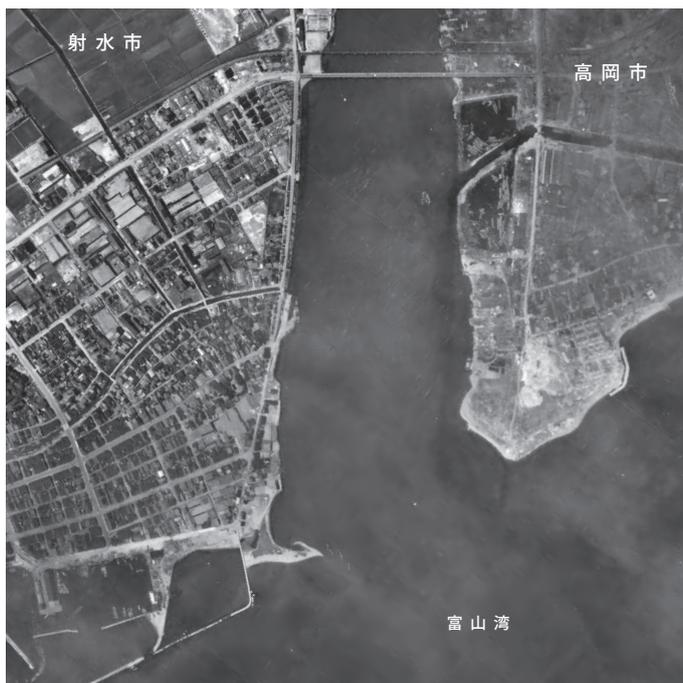


1961年5月撮影

神通川（じんずうがわ）は、流域面積 2,720km<sup>2</sup>、幹線流路延長 120km を有する。岐阜県飛騨地方の川上岳（かおれだけ：標高 1,626m）に源を発し、飛騨高地の中を進む。富山県境付近で高原川と合流し、富山市笹津付近で富山平野に出る。平野部では富山市のほぼ中央を貫流し、富山湾に注いでいる。河口東側に位置する富山港は、かつて河口港として利用されていたが、1937年に右岸導流堤により分離され、現在の形状となった。



富山河川国道事務所 撮影



1961年5月撮影

庄川（しょうがわ）は、流域面積 1,180km<sup>2</sup>、幹線流路延長 115km を有する。岐阜県高山市南西部、旧荘川村の山中峠（1,375m）の湿原に源を発し、御母衣湖、白川村を経て北上、富山県に入る。富山県内では五箇山、庄川峡を抜け利賀川と合流したのち、庄川扇状地の東端、高岡市と砺波市の東側、新湊市の西側を北流し富山湾に注いでいる。

# 小矢部川 43

北  
陸



富山河川国道事務所 撮影



1961年5月撮影

小矢部川（おやべがわ）は、流域面積 667km<sup>2</sup>、幹線流路延長 68km を有する。石川県との県境の大門山（標高 1,572m）に源を発し、山峡の地を離れ砺波平野に出た小矢部川は、東側に位置する庄川扇状地の扇端と西側にある山々との間を曲がりくねり、数々の支川と合流しながら、砺波市から小矢部市、高岡市を経て富山湾に注いでいる。河口部は庄川の河口と隣接しており内川で繋がる。



金沢河川国道事務所 撮影



日本海

1963年4月撮影

手取川（てどりがわ）は、流域面積 809km<sup>2</sup>、幹線流路延長 72km を有する。石川県白山市の霊峰白山（標高 2,702 m）に源を発し、尾添川、大日川、その他の支川を合流して白山市鶴来大国町付近に至り、旧鶴来町市街地で流路を西へ変更し、山から金沢平野へ抜ける地点を扇頂とした扇状地を形成している。石川県の誇る穀倉地帯である加賀平野を西流し、能美市と能美郡川北町の境界を流れ、旧美川町で日本海に注いでいる。河口部には北陸自動車道が横断している。

# 梯川 45

北  
陸



金沢河川国道事務所 撮影



1963年7月撮影

梯川（かけはしがわ）は、流域面積 271km<sup>2</sup>、幹線流路延長 42km を有する。白山山系大日山連峰の鈴ヶ岳（標高 1,174m）に源を発し、大杉谷と通称される山間部を北流して能美・江沼丘陵に入り、東より郷谷川、滓上川、仏大寺川を合流しながら流れを西に転じて平野部に入り、北から鍋谷川、八丁川が合流、河口近くで木場潟から流れ出る前川が南より合流して日本海に注いでいる。







沼津河川国道事務所 撮影



1962年9月撮影

中  
部

狩野川（かのがわ）は、流域面積 852km<sup>2</sup>、幹線流路延長 46km を有する。伊豆半島の最高峰、天城山に源を發し、伊豆半島中央部の大見川等の支川を合わせながら、大仁町から田方平野に出て、途中伊豆長岡町で狩野川放水路を分派し北に流れ、箱根山等を源とする来光川、大場川を韮山町、函南町にて、富士山等を源とする柿田川、黄瀬川を三島市、清水町にて合わせ沼津市において駿河湾に注いでいる。河口部右岸は沼津港が位置している。

# 安倍川 47

中  
部

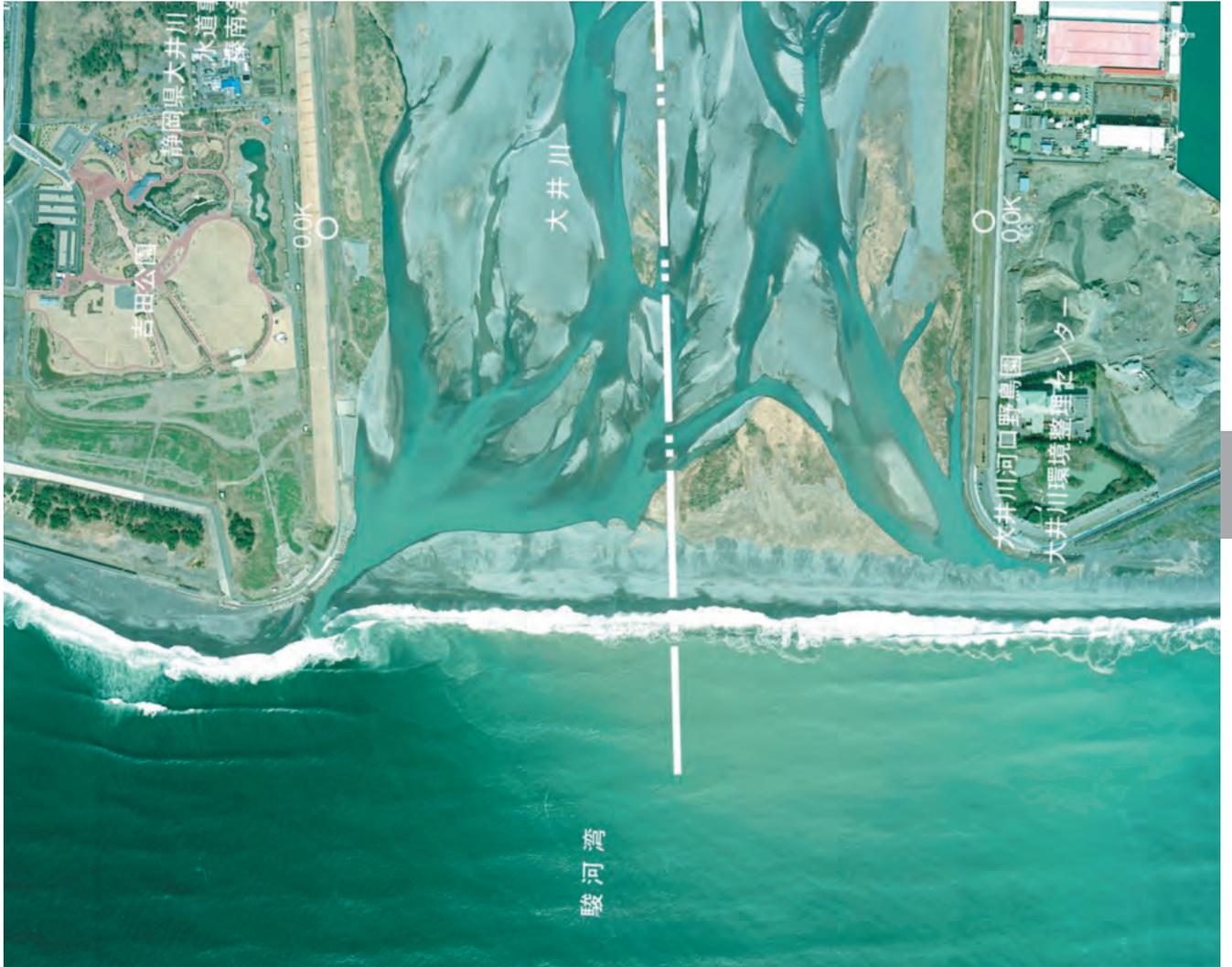


静岡河川事務所 撮影

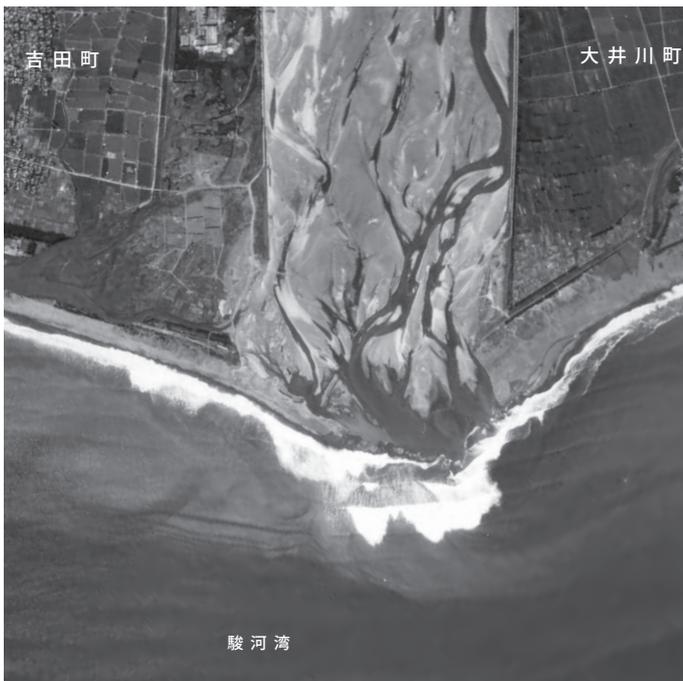


1962年7月撮影

安倍川（あべがわ）は、流域面積 567km<sup>2</sup>、幹線流路延長 51km を有する。同県と山梨県との境にある、大谷嶺、八紘嶺、安倍峠に源を発し、途中多くの溪流を合わせながら、静岡市の中山間部で支川中河内川、平野部で支川藁科川と合流し、静岡市街地を南に流下し、下流部では静岡市街地の西側を流れ、駿河湾に注いでいる。河口部右岸から丸子川が合流している。



静岡河川事務所 撮影



1962年7月撮影

大井川（おおいがわ）は、流域面積 1,280km<sup>2</sup>、幹線流路延長 168km を有する。南アルプス南部、静岡県、長野県、山梨県の県境付近間ノ岳に源を発し、途中多くの溪流を合わせながら、静岡県島田市金谷町で山峡の地を離れ、以後、島田市、藤枝市、金谷町を南に流下し、大井川町、吉田町にて駿河湾に注いでいる。

# 菊川 49

中部



浜松河川国道事務所 撮影

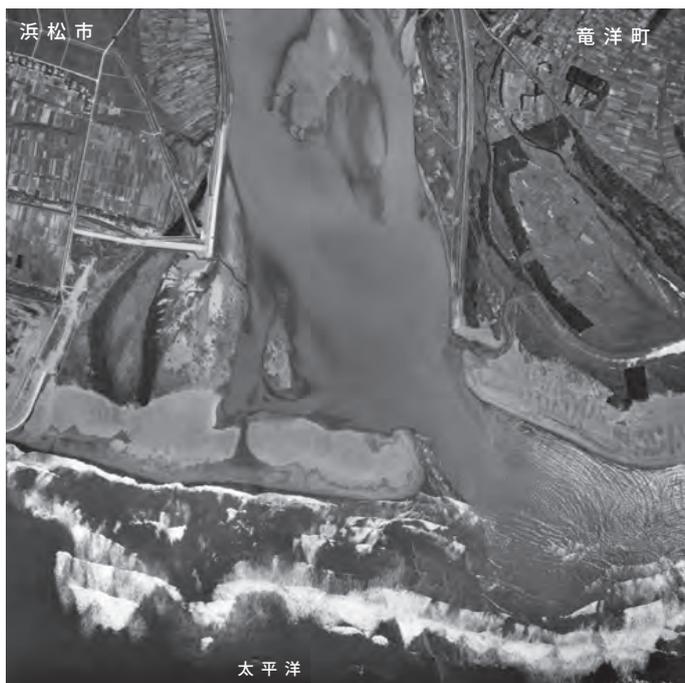


1962年8月撮影

菊川（きくがわ）は、流域面積 158km<sup>2</sup>、幹線流路延長 28km を有する。静岡県金谷町と掛川市の境にある粟ヶ岳に源を発し、菊川町、小笠町の低平地で支川を集めながら流れ、大東町地先で牛渕川と合流後、遠州灘に注いでいる。河口とも掛川市にあるが、途中菊川市の中心部を縦断する。24 の支川とともに菊川水系を構成している。



浜松河川国道事務所 撮影



1962年8月撮影

天竜川(てんりゅうがわ)は、流域面積5,090km<sup>2</sup>、幹線流路延長213kmを有する。長野県の諏訪湖に源を発し、南アルプスと中央アルプスから流れる支川を集めながら伊那谷を流れ、飯田市の天竜峡より山間部に入り、佐久間ダムなど発電ダム、天竜市鹿島地先を過ぎると浜松市二俣町鹿島で平野部を経て、浜松市と磐田市との境を成しつつ遠州灘に注いでいる。

# 豊川 51

中部



国土地理院 撮影 (2005年)



1961年5月撮影

豊川（とよがわ）は、流域面積724km<sup>2</sup>、幹線流路延長77kmを有する。愛知県設楽町段戸山（標高1,152m）に源を発し、愛知県東部の山間部を流れ、宇連川と合流した後、豊橋平野に流れる。豊川市行明町で豊川放水路と分流し、大きく蛇行しながら豊橋市市街北部を流れ三河湾（渥美湾）に注いでいる。河口部で豊川放水路と合流する。全国でも屈指の清浄な水質の川である。又、東三河地域における水瓶ともなっている。



国土地理院 撮影 (2006年)



1968年11月撮影

矢作川（やはぎがわ）は、流域面積 1,830km<sup>2</sup>、幹線流路延長 118km を有する。長野県の中央アルプス南端の大川入山（標高 1,908m）に源を発し、愛知県、岐阜県境の山岳地帯を流れて、巴川を合流して三河平野に出て、岡崎市で乙川を合流し、河口から 12km 付近で矢作古川と分派して、碧南市と西尾市との境で三河湾に注いでいる。

# 庄内川 53

中  
部



庄内川河川事務所 撮影



1961年5月撮影

庄内川(しょうないがわ)は、流域面積1,010km<sup>2</sup>、幹線流路延長96kmを有する。岐阜県恵那郡山岡町にある夕立山に源を發し、岐阜県東濃地方の盆地を貫流し、山間部(玉野溪谷)を急流となって流下し、その後、愛知県春日井市附近より濃尾平野に出て支川を合わせて名古屋市北部で新川を分派し、その下流で矢田川と合流し、名古屋市の北西部を迂回しながら伊勢湾に注いでいる。



木曾川下流河川事務所 撮影

長良川

揖斐川



1962年3月撮影

木曾川（きそがわ）は、流域面積9,100km<sup>2</sup>、幹線流路延長229kmを有する。長野県木曾郡木祖村の鉢盛山（標高2,446m）に源を発し、木曾谷として名高い渓谷を中山道に沿って南南西に下って岐阜県に入り、飛騨川などと合流し、愛知県犬山市で濃尾平野に出て、南西に流下し、長良川と背割堤を挟み併流南下し、伊勢湾に注いでいる。木曾川は、いわゆる木曾三川の一つで、木曾川、長良川、揖斐川の河川からなり、古来は、この三川は、一つの川として乱流していたが、江戸時代以降何度となく改修工事が繰り返され、三川を分流し現在の河状となった。

# 鈴鹿川 55

中  
部



三重河川国道事務所 撮影



1966年8月撮影

鈴鹿川（すずかがわ）は、流域面積 323km<sup>2</sup>、幹線流路延長 38km を有する。滋賀県との県境を成す鈴鹿山脈の那須ヶ原岳（標高 800m）東麓に源を発し、途中多くの溪流を合わせながら、関町で山間の地を離れ、その後安楽川を合わせ、亀山市、鈴鹿市の中心を東北に流下し、鈴鹿市地先の河口より 5km の地点で鈴鹿川派川を分派したのち、内部川を合わせ塩浜地先で伊勢湾に注いでいる。



三重河川国道事務所 撮影



1961年8月撮影

雲出川（くもずがわ）は、流域面積550km<sup>2</sup>、幹線流路延長55kmを有する。三重県と奈良県の県境付近にある三峰山に源を発し、途中多くの溪流を合わせながら、白山町で山間の地を離れ、伊勢平野に出て、一志町、久居市内の田園地帯を東に流下し、波瀬川、中村川を合わせ、香良洲町の手前で雲出古川を分派し伊勢湾に注いでいる。

# 櫛田川 57

中  
部



三重河川国道事務所 撮影



1961年8月撮影

櫛田川（くしだがわ）は、流域面積436km<sup>2</sup>、幹線流路延長87kmを有する。三重県飯高町と奈良県東吉野村の境にある高見山に源を発し、蓮川をはじめ多くの支川や溪流を合わせながら東流し、伊勢平野に出て佐奈川を合わせた後、松坂市法田で祓川を分派し、流路を北に転じ田園地帯を通過して松世崎、浦新田地先で伊勢湾に注いでいる。



三重河川国道事務所 撮影



1961年8月撮影

宮川（みやがわ）は、流域面積920km<sup>2</sup>、幹線流路延長91kmを有する。三重県宮川村と奈良県上北山村の境にある日出ヶ岳にその源を発し、大内川などの支川と合流しながら、北東に流れ、度会町で山間の地を離れ伊勢平野に出て、伊勢市、御園村内を北東に流下し東豊浜町、大湊町の境で伊勢湾に注いでいる。

